

Q 避難経路ってどんなところ?



A 「避難経路」とは、原子力災害が発生した際に、自宅や職場などからまず避難退域時検査場所（放射性物質が車両や衣服などに付着していないか検査する場所）を通過し、最終的な避難所へ向かう前に立ち寄る中継地点のことを指します。

この「避難経路」は、慣れない場所へ避難する場合でも、住民の皆さまが混乱することなく、安全に避難できるように設置されています。

設置する具体的な場所は、公園や文化施設のように、ナビゲーションシステムで簡単に検索できる分かりやすい場所が選ばれており、今回の訓練では、浜名湖ガーデンパークを「避難経路」として開設しました。

「避難経路」の役割は単に避難者の通過点であるだけでなく、避難する皆さまに対して、各避難所の開設状況や収容状況を踏まえたうえで、最適な避難先を振り分けることにあります。これにより、各避難所の混雑を緩和し、効率的な避難誘導が可能となって、避難全体の安全性や円滑な運営につながっていきます。

こうした仕組みは、住民一人一人が安心して避難できる環境づくりにおいて、重要な役割を果たしています。

【避難経路のイメージ】

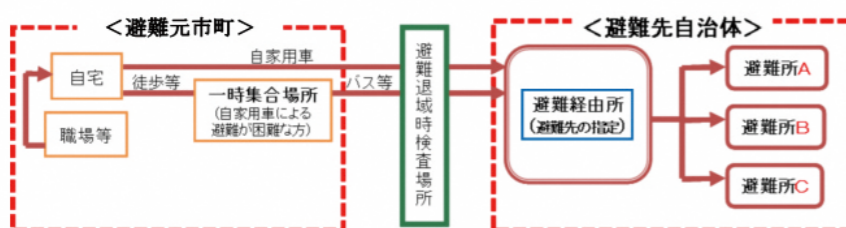


図1 避難経路のイメージ



図2 避難経路運営訓練の様子

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中（令和7年10月～12月）、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、令和8年3月30日現在、3号機、4号機及び5号機については定期事業者検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局
静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス: <https://www.pref.shizuoka.jp/kensei/introduction/soshiki/1003618/1030308.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス: <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp/radiation/home.html>



原子力だより No. 208



原子力災害合同対策協議会活動訓練 (静岡県オフサイトセンター)



要配慮者避難訓練 (空路による搬送)



避難退域時検査場所運営訓練 (車両検査)



避難退域時検査場所運営訓練 (住民検査)

静岡県と浜岡原子力発電所立地周辺11市町は、国、関係機関の協力を得て、浜岡原子力発電所における原子力災害を想定した原子力防災訓練を実施しました。

令和8年1月28日には、国、県、市町の担当者らが県オフサイトセンターに参集し、浜岡原子力発電所4号機の事故で、放射性物質が放出される原子力災害を想定して、情報伝達や状況判断の訓練を行いました。

1月31日には、地域住民の皆さまの参加を得て、バスなどによる広域避難や放射性物質が車両や衣服などに付着していないか検査する避難退域時検査、自衛隊ヘリによる要配慮者の搬送などの訓練を行いました。

静岡県や関係市町は、訓練の成果や反省を活かして、広域避難計画の実効性を向上させていきます。

令和7年10月～12月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

令和7年10月から12月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

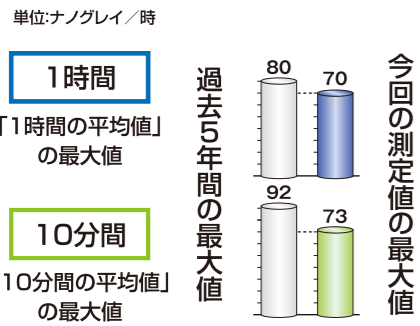
今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故や過去の核爆発実験等による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。(詳細は次ページ)

令和7年10月～12月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

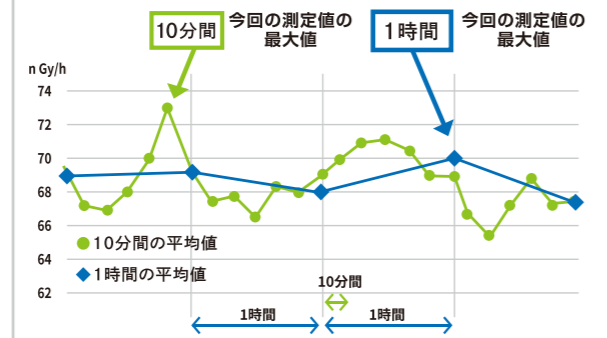
空間の放射線の測定 (1時間平均値および10分間平均値の最大値)

モニタリングステーション(14か所)において、常時、空間放射線の量を測定しています。そのうち、1か所で10月に過去5年間の最大値を上回ったときがありました。原因は、降雨により大気中の自然放射性物質が地表に降下・沈着することで、放射線の量が一時的に上昇したと考えられます。測定された値は、東電事故等の影響は認められず、自然放射線由来のものです。

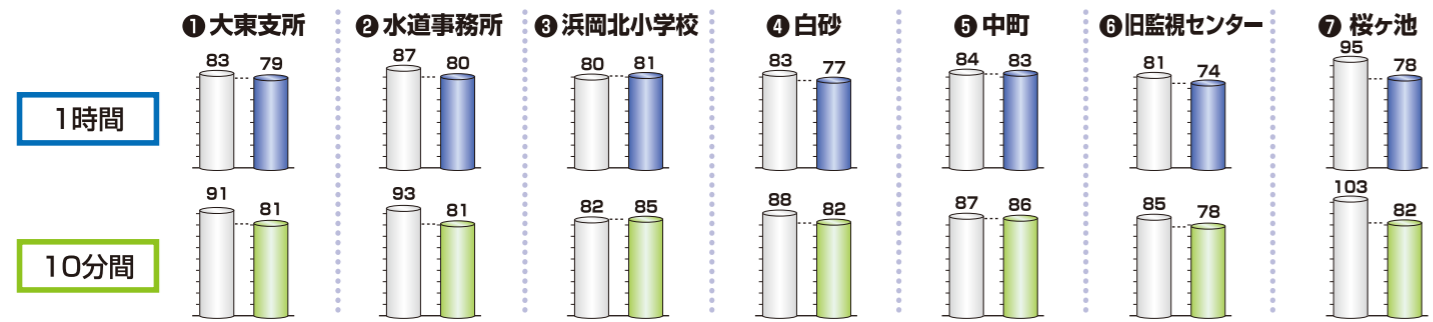
グラフの見方



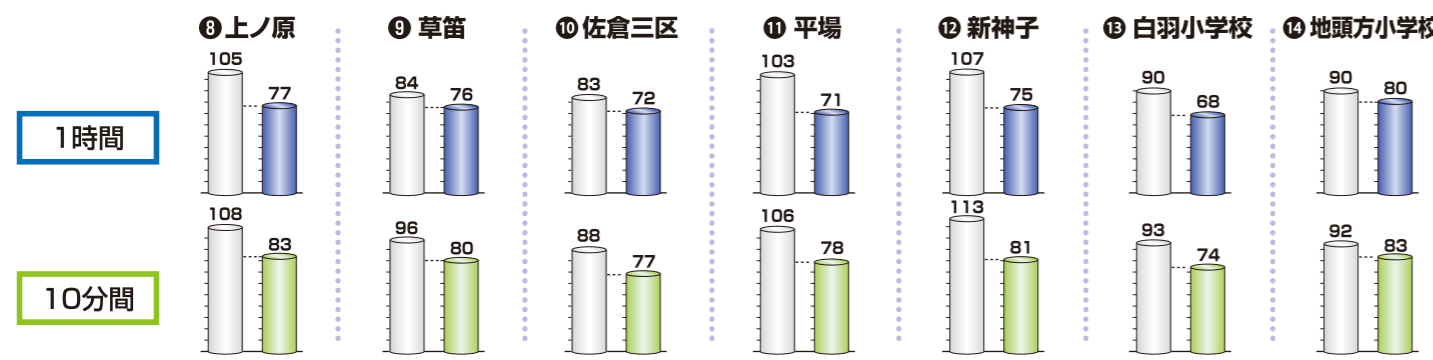
グラフの値について



期間中に測定した空間放射線の線量率を、1時間毎、10分間毎に平均して算出し、その中で、最大になったものを表記しています。被ばく線量の推定や評価のため「1時間の平均値」を用い、放射線量の変動をより細かに知るために「10分間の平均値」を用います。(左の図のように10分間の最大値の方が、1時間の最大値より値が大きくなります。)



モニタリングステーションの配置図



測定結果から、自然放射線による外部被ばく線量は、年約0.29mSvと推定されます。(日本平均約0.33mSv、世界平均約0.48mSv※)
※生活環境放射線(国民線量の算定)第3版 令和2年11月(公益財団法人 原子力安全研究協会)から引用

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。令和7年10月から12月の間に測定した試料の一部※は、過去(震災前)5年間の最大値を上回りましたが、いずれも国の基準*等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響によるものと推定しました。

※測定した11試料32検体のうち、2試料2検体(土壌1検体、原乳1検体)

*食品衛生法に基づく基準値(参考欄参照)

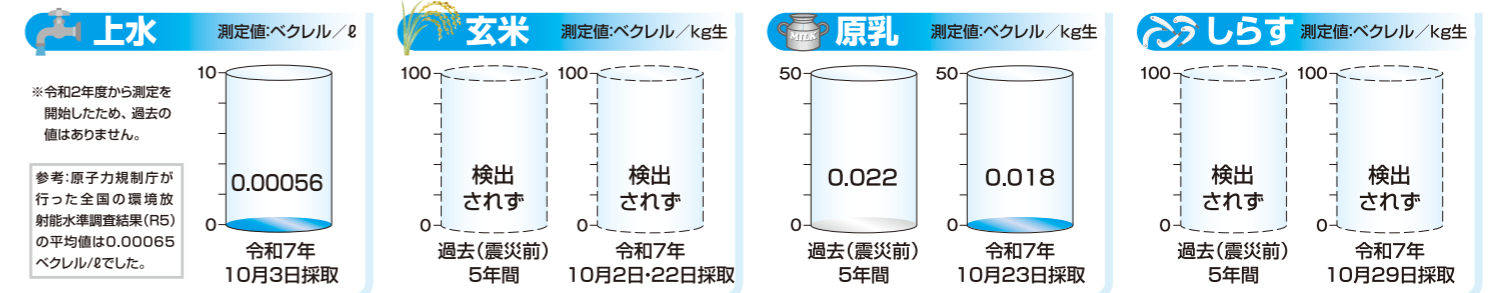
代表的な試料の放射性セシウムの測定値の最大値



参考 食品衛生法に基づく食品の放射性セシウムの基準値

食品群	基準値(Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100

代表的な試料の放射性ストロンチウムの測定値の最大値



放射能調査に用いる単位

- グレイ (Gy) ……放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
 - シーベルト (Sv) ……吸収線量を元に人体への影響を考慮して算出した線量の単位
 - ベクレル (Bq) ……放射能の強さを表す単位
- 【参考】ミリ (m) ……1/1,000 千分の1
マイクロ (μ) ……1/1,000,000 百万分の1
ナノ (n) ……1/1,000,000,000 10億分の1